



# ☆このゆびと～まれ！みんなともだち☆

～5歳児 そら組 生活発表会 「劇遊び」までの保育の過程～



令和7年2月

秋の遠足でビッグバンに出かけ、大きな恐竜の遊具で遊んだことから、たくさん恐竜の絵本や図鑑を見て関心を深め、作品展の共同制作「**いってみたいな恐竜の国**」につながっていきました。いろいろな恐竜を知るなかで、「きっとこの恐竜はみんなのこと助けてくれるで」「でもこっちの恐竜は顔が怖そうやし、食べられそう…」そんなつぶやきもありました。これから、就学して新たな友達や先生との出会いを重ねていくそら組さんにとって、「**先入観をもたず、相手を知る大切さを感じてほしい**」と願い、絵本「**ともだちほしいな おおかみくん**」を読むことにしました。嘘をついておおかみくんを避けようとする動物たちの様子を見て、「おおかみくん、かわいそう」「本当はやさしいのになぁ」と思いを寄せて考えてくれる様子がありました。

そこで、「おおかみくんが恐竜だったら？」と呼びかけ、創作劇づくりへと繋がっていきました。恐竜は一番迫力のある**ティラノサウルス**にすぐに決まりました。ティラノサウルスと同じ特徴がある動物をいくつか考えていくなかで、最終的に**ねこ・わに・ライオン**と登場する動物が決まっていき、2学期末からストーリーづくりが始まりました。嘘をついてティラノサウルスを騙して避けるより、みんなが大ピンチになったときに、助けてくれることでティラノサウルスの本当の姿に動物たちが気づくことができるのでは…？と、どんどんお話の流れが決まっていきました。3学期に入ってから、役決めをしてそれぞれのテーマソングを考えたり、ピンチを助ける方法のアイデアを出し合ったりし、何度も話し合いの場をつくり進めてきました。どの場面もそら組17人の気持ちが込められたおすすめポイントになっています。「最後に、大きな拍手もらえたら最高にうれしいね！」とお客さんの反応に期待を膨らませながら、練習を頑張りました。どうぞ、劇の最後だけでなく、途中で手拍子をしていただきながら、一緒に盛り上げてくだされば嬉しいです！



## ①お話を考えよう！



- ・お話をつくりあげる楽しさを感じる
- ・友達と同じイメージを共有する
- ・自分の考えを言葉にして伝える

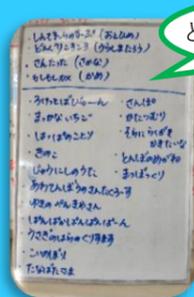
お話づくりは、楽しみながら進められましたが、みんなのアイデアや意見がたくさん出て、まとめていくのにも時間がかかりました。決め方も、多数決・譲り合いなど一つ一つみんなが納得して進めていくのに苦労しました。

## ②役を考えよう！



きばが一緒やから、ライオンとか、ねこがいんじゃない？

## ③役のテーマソングを考えよう！



どの曲で替え歌にする？

私、ひらがな書けるで！

メロディに合うかな～？

各役のテーマソングを決めていくのに、全員でこれまで歌ってきた歌をリストアップ！役のイメージに合う歌を決めたら、歌詞を考えていきました。

- ・リズムにのって歌をうたう
- ・文字に関心をもって、活かそうとする

## ④役のセリフやポーズを考えよう！



それぞれの役の仲間意識が芽生えてきて、グループごとに練習をすると、動きのタイミングを合わせようとする姿が多く伺われました。

- ・仲間意識の芽生えを感じる
- ・心と体を動かす心地良さを感じる
- ・友達との意見の違いを通して、葛藤する気持ちや折り合いをつけていこうとする

ティラノのポーズは、どうする？足ふみとかして、大きい音を出すとかはどう？

## ⑤衣装を考えてつくろう！



ねこはやっぱり黄色やろ～？しっぽはしましま模様にする？カラフルにして、かわいくしていこう！

- ・衣装のデザインを考える
- ・友達とイメージを共有する

## ⑥劇に必要な物を考えてつくろう！



- ・劇に必要な物を考えて準備する

ジャングルの木やから、バナナも入れよう！

もっと、手をバタバタした方が、川でおぼれてるみたいにみえるんじゃない？

- ・自分の役の出番に備えて動く
- ・友達の表現の仕方にも関心をもつ
- ・グループで声を合わせ、一体感を感じる

## ⑦みんなで演じてみよう！

- ・力を合わせてお話を進める
- ・役の気持ちを考えて表現する
- ・自分たちの姿がお客さんからどのように見えているか考えて動いてみる



## ⑧振り返りをしよう！



〇〇くんの声がめちゃくちゃ大きくてよく聞こえてるな。笑ってしてるのもいいと思う！

- ・いろいろな先生からのアドバイスを聞いて、活かそうとする

毎回練習の始めには、昨日からの振り返りをし、その日の頑張るポイントを絞って意識できるようにしました。また、終わった後には、頑張っていたところ、もっと～したら良かったと感じたところなどを出し合いました。自分の表現だけでなく、友達の姿も認め合う気付きも生まれています。本番はドキドキするかもしれませんが、それぞれの表現を温かく見守ってあげてくださいね。